いいたて みかげ石 ものがたり

主要道路の村境に石碑があります。これらは「石彫のある村・工芸文化の村づくり」を掲げ、県の地域振興事業の助成を受けて、村が設置したもの。今から20年以上前、平成9年度から11年度までろか年をかけ、村内の石材業者が制作したものです。

上質なみかげ石の産地

「ここにも石碑があるな」「ユニークな石彫…」「でも、どうして」と思っている方はいませんか。そう、飯舘村には、至る所に、さまざまなメッセージを秘めた石碑や石彫が置かれているのです。

飯舘村は、上質な「白みかげ（御影）石」の産地。戦後からその生産が本格化し、村の主力産業として石材業が発展しました。しかしその後、海外からの安価な石材が国内に流通するようになり、次第にその生産量は減少。東日本大震災時の全村避難をきっかけに、事業の休止・廃止が相次ぎ、現在に至ります。

しかし、村のみかげ石の持つ魅力が、変わったわけではありません。建築物が、その美しさを伝え、石碑は、建てた当時の方々の思いを永く発信し続けています。

村内のみかげ石スポットを、ごく一部ですが紹介します。村内を彩るみかげ石に、ぜひご注目を。

村境の石碑たち

大倉地区、南相馬市との村境。はやま湖畔で開かれていたマラソン大会をモチーフにランナー型の石碑。

佐須峠の頂、伊達市霊山との境にある石碑。柱に支えられ球体が宙に浮かんでいる技ありの造形。

二枚橋の水芭蕉群生地からほどなく伊達市月舘との村境にある石碑。牛の角をかたどっています。

前田地区と伊達市月舘との境にある石碑。地区内に東北大学大学院の惑星圏観測所があることから天文学をイメージしたデザインに。

県道原町川俣線の南相馬市との村境。現在は隣にリアルタイムの放射線量を表示する「お帰りなさい」看板があります。

浪江町との村境。今は自由な通り抜けができない道ですが、石碑は胸を張ってゲートの開く日を待っています。

交流センター「ふれ愛館」前にある飯舘村の形の石碑。表面には「ようこそ飯舘村」の文字。裏面には、村境の石碑の大まかな位置が記されていて、まるで宝探しの地図のような楽しさがあります。

県道原町川俣線の川俣町側の村境。村に入り、ぱっと風景が開ける場所にあります。こちらにも「お帰りなさい」看板。

比曽から川俣町山木屋に続く道沿いにある石碑。峠道を降りて住宅が見えてくる場所で来村者を迎えます。

国道399号線から浪江町に続く道。手書き風の文字が印象的です。